

今年も残りあとわずかだが、私は例年とは違う緊張を感じている。

今年<sup>ひのひとり</sup>は丁酉。丁は火を表すが、一般的には安定した成長サイクルや利益の収穫期に入る年といわれる。

「火」と言えば漫画家、手塚治虫氏の長編「火の鳥」を連想する方も多いただろう。しかし、あの作品では残念ながら人類の未来はハッピーではない…。

現代は「情報革命」と言われる。スマートフォンやインターネットといったITの急速な進化によって世界中の人々が瞬時につながり、相互理解が進む時代の到来が予想された。

ところが現実を見ると、世界情勢は分断と断絶を極め、差別と混乱が加速している。

AI(人工知能)を生み出した人類の未来はさまざまな危険をはらむと知りながら

## 明るい希望と勇気で迎える新年



も、あらゆる分野で急速に無人化が進み、人間の思考や行動が管理されていく。

便利だが、われわれ人類が自由や自然を謳歌できない世界とはどんなものなのだろう。私はAIとの共存は楽しみでもある。が、その扉を開くなら、その未来への責任はわれわれ全員が担うべきだろうと考える。

暦が一周する60年前、昭和32年に茨城県の東海村でわが国初の「原子の火」が灯された。その時、今の日本の現状は予想されただろうか。

「戌年」の来年は一体、どんな年になるのか。これまでの努力や成長から生まれた新

たな「芽」が大きく伸びる年とも言われるが、それならば、われわれは真剣に後世のことを考えてみたい。未来に命を繋ぐ子供たちのために何ができるかを…。

どんな時代になろうとも、私たちが求める限り、人間同士の絆は決して失われない。考えよう。

新しい年を明るい希望と勇気を持って迎えたい。人間らしい健全な幸せと安らぎ。朗らかな笑顔の人がひとりでも多いことを心から願う。

(さとう・しのぶ 一声楽家)

—毎月第3金曜日掲載

